２０１１／０５／１５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：異邦人の救い３
聖書箇所：ローマ人への手紙　１１章１７－２４節

「主は大いなる方。大いに賛美されるべき方。その偉大さを測り知ることができません。」、このように言ったのはダビデでした（詩篇１４５：３）。確かに、神の偉大さは私たちの理解をはるかに越えています。ローマ１１：３３には**「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。」**とあります。「神さま、私たちには分かりません。あなたの知恵も、あなたのその力も。」と言います。もちろん、この方は神です。その方のすべてを私たちは知ることはできません。

パウロはこれまでの学びを通して私たちに神の偉大さを示し続けてくれています。なぜなら、私たちが神の偉大さを知れば知るほど、神に対する畏敬の念を抱くことをパウロは知っているからです。そして、私たちが神を知り畏敬の念を抱くときに、私たちはこの主なる神を心から崇める者へと変えられていくからです。神を知っている者たち、神のすばらしさを知っている者たち、それはその生き方が明らかにします。ですから、パウロは私たちに「私たちの神はどれ程偉大なお方か」ということを教え続けてくれるのです。今日も私たちはこの学びを続けてゆきますが、すでに私たちは１１章１１節のところから幾つかの「神の偉大さ」を見て来ました。

☆神の偉大さ

Ａ．神の知恵　　１１節

一つ目は、１１節から「神の知恵」について学びました。神は異邦人の救い、異邦人が救いに導かれるその様を通して、イスラエルを救いへと導こうとしておられるという、その深遠な神の知恵についてパウロは教えました。

Ｂ．神の計画　　１２－１５節

二つ目に見たのは「神の計画」でした。１２－１５節までに記されています。確かに、イスラエルが救い主を拒むことによって、この救いは私たち異邦人に及びました。そして、今私たちは神の恵みによってこの救いに与ったのです。しかし、驚くべきことは、イスラエルの罪によって神は仕方なしに私たち異邦人をあわれんだのではない、これはすべて神のご計画のうちにあったことである。イスラエルの罪も、そして、救いが異邦人である私たちに及ぶことも、すべて神のご計画のうちにあったということです。それらのことを通してパウロは言います。「どんな時でも、何が起こっていようと、神の完全な計画は成され続けていく。」と。これまでもそうだったしこれからもそうです。神がみことばでおっしゃったことは必ず成就します。確かに、この世は滅びます。しかし、「わたしのことばは永遠に堅く立つ」と言われました。神が言われたことは必ずそのようになると、みことばはそのように私たちに教えます。

Ｃ．神の恵み　　１６－２２節

神の知恵、神のご計画、そして、１６節から「神の恵み」についての学びを始めました。イスラエルへの祝福、特に、将来の祝福について１６節から２２節のところでパウロは教えています。

１．その根拠　　１６節

このことを説明するために、まず、パウロは１６節で「イスラエルのつまずき」は一時的なもので、後にイスラエルは救われるということを言います。イスラエルにはすばらしい祝福が約束されていることをパウロは二つの「たとえ」を用いて語りました。「主へのささげ物」と「木」です。

２．異邦人信仰者への祝福と警告　　１７－２２節

その説明の後に、今日、私たちが見る箇所ですが、１７節から２２節までに、異邦人で信仰をもった者たち、異邦人信仰者、異邦人キリスト者への「祝福と警告」が記されています。私たち異邦人でイエス・キリストを信じる者たちにどのような祝福が約束されているのか、そして同時に、どのようなことに注意しなければならないのかという警告が１７節から記されています。

１）救い　　１７節

１７節**「もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、」**、パウロは異邦人クリスチャンに与えられている祝福を、接ぎ木のたとえをもって話しています。というのは、このたとえは当時の人たちが非常によく理解できたことだからです。オリーブの木はどこにでもあります。そして、実際に、農夫た

ちはそのように接ぎ木をすることによって、より多くの実を収穫しようとするのです。

（１）救い　　１７節

どのような祝福が異邦人に与えられたのか？それは「救い」です。１７節**「野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、」**とあります。「オリーブの幹につながれる」、つまり、救いのことです。では、この幹であるオリーブの木とはいったい何を指しているのでしょう？確かに、旧約聖書のエレミヤ書、ホセア書を見ると、イスラエルのことを「オリーブの木」と呼んでいますが、ここで言われいるオリーブの木は、イスラエルというより「神の人々」のことです。神を信じて救いに与った人々のことです。ですから、そこにはユダヤ人も異邦人も含まれるのです。シュレイナーという神学者はそのように言います。確かに、みことばはそのように私たちに教えています。

また同時に、**「枝の中のあるものが折られて、」「野生種のオリーブ」**と書かれています。明確にしておくために簡単に説明します。

◎「枝の中で折られた枝」

この「枝」はイスラエル民族のことを指しているという人たちも確かにいます。でも、そうではないと考えるのは、１７節には「枝の中のすべてのものが折られる」とは書かれていないからです。**「枝の中のあるものが折られて、」**、つまり、この「折られた」人たちとは、ユダヤ人の中でこのすばらしい救い主を受け入れなかった人たちことです。「神の救いの恵みを拒んだユダヤ人たち」のことです。

◎「接ぎ木された野生種の枝」

また「接ぎ木された野生種のオリーブ」というのは「信じた異邦人たち」のことです。実は、そのことは２０節に記されています。**「そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。」**、信仰のことです。ですから、枝の中の「折られた枝」は不信仰によって折られ、「つながれた者たち」は、信仰ゆえに祝福につながれた者たちです。

さて、１７節に接ぎ木のことが記されています。よく見ると**「野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、」**とあり、つがれるのです。実は、これはこの当時に行なわれていた接ぎ木とは異なりました。百年以上生きると言われるオリーブの木はたくさんの実を実らせますが、年齢とともに実が少なくなってゆきます。そうすると、農夫はその枝を切って野生種のオリーブの幹にその枝を接ぎ木するのです。ところが、この１７節でパウロが言っているのはその逆です。オリーブの幹に野生種のオリーブの枝を切って接ぎ木するというのです。当時の農夫たちが行なっていたことと逆のことをパウロは記しています。２４節にはこのように記されています。**「もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、」**と新改訳聖書は訳しています。これは「自然の法則や秩序に反して、背いて」という意味です。農夫はどうすればたくさんの収穫を得ることができるのかを知っているのです。年老いたオリーブの木の枝を野生種の幹に接ぎ木することでした。でも、パウロが記しているのはそれとは逆のことでした。

そうすると、私たちが考えることは、パウロ自身もそのように言いますが、パウロは農夫ではなかったからそのようなことに関する知識がなかったので、誤ってこのように書いたのではないかということです。しかし、決してそうではありません。パウロは知っていました。では、どうしてパウロはこのように、通常、農夫たちがすることと逆のことを記したのでしょう？パウロは異邦人たちにこのことを教えたかったのです。神のあなたに与えられた恵みは普通ではない、常識を越えているということです。パウロは、異邦人に与えられた神の恵みのすばらしさ、その偉大さを教えるためにこのように記したのです。それが普通の人が考えることを越えているために、常識を越えているために、あえてこのような書き方によって、そのことを明らかにしようとしたのです。

◎「豊かな養分」

１７節の最後に**「そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、」**とあります。これは「神の選びの恵み」のことです。それをともに受けていると言います。私たち異邦人もそのようなすばらしい永遠の祝福の中に招き入れられたと言うのです。救われた者に与えられる主の恵み、永遠の祝福、この祝福は信仰の父アブラハムの子孫に与えられると約束され、後には異邦人も彼ら同様に、神の恵み、祝福をいただくものとされたのです。神の選びの恵みによって救われたのです。ゆえに、今、私たちはその祝福に与っているのです。このことは後でもう一度見ます。

ですから、パウロはここで、野生種である私たち異邦人の信仰者は、このすばらしい神の祝福の中につがれた、祝福に与る者へと変えられたということを言うのです。

（２）警告　：　イスラエルに対して高ぶらない　　１８－２２節

ですから、どうしてゆけばいいのか？１８節を見てください。**「あなたはその枝に対して誇ってはいけません。」**と、ここから「警告」が始まっているのです。確かに、あなたたちに与えられている祝福はす

ばらしい、常識を越えた普通には考えられない祝福を神は与えてくださった。ゆえに、あなたがたは次のことを注意しなければいけないと、パウロはこの後私たちに教えます。

◎プライド

先ず、私たちの問題は「私たちのプライド」であると言います。折られた枝に対して、その不信仰のユダヤ人たちに対して、あなたたちは誇ってはならないと言うのです。このプライドの問題は私たち人間に共通した問題であると思います。ユダヤ人たちも大きなプライドをもっていました。「自分たちは選民である」というプライドです。そして、それゆえに、そうでない者たちを見下したのです。だから、パウロは異邦人のクリスチャンたちに対して「あなたたちはそのようなことはしてはいけない。我々は救われているが、あなたたちは救われていないと、そのように彼らを見下すようなことをしてはならない。」と言うのです。なぜなら、神がこのようなプライドを憎まれるからです。

詩篇１０１：５：**「陰で自分の隣人をそしる者を、私は滅ぼします。高ぶる目と誇る心の者に、私は耐えられません。」**

箴言６：１６－１７：**「主の憎むものが六つある。いや、主ご自身の忌みきらうものが七つある。:17 高ぶる目、偽りの舌、罪のない者の血を流す手、」**

箴言２１：４：**「高ぶる目とおごる心――悪者のともしびは罪である。」**

ローマ１：３０：神はこれらをどれ程憎んでおられるか！私たちがこのローマ書の学びを始めたときに、神を知らない人々、いや、神を知ろうとしない人々、信じたくないという人々は、その誤った選択のゆえに益々その罪の深みに陥って行くとパウロが記している箇所を見ました。**「そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、」**とあります。人間は罪の結果、そして、罪を愛するゆえに、罪を選択するゆえに、益々そのようになって行く。そして、この中にも出て来るのは**「高ぶる者」**です。

Ｉペテロ５：５：**「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。」**

これらのみことばから神がどれ程このプライドを憎んでおられるのかが明らかです。

そのことを言った後、パウロはここから「誇ってはいけない三つの理由」述べます。

◎誇るべきでない理由

（１）「契約の恩恵」のゆえに　：　根があなたを支えている　　１８節

私たちは神から契約の恩恵を受けているのだから、高ぶることはできない、彼らを見下すことはできないと言うのです。１８節**「あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」**、注意してください。**「あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」**とあります。今、あなたがこのようにすばらしい救いの喜びを楽しんでいること、永遠のいのちをいただいてそれを喜んでいるのは、すべて根のおかげだと言うのです。この「根」とは何か？すでに１６節で**「根が聖ければ、枝も聖いのです。」**と見て来たように、それは「イスラエルの先祖、族長たち、特にアブラハムのこと」です。

創世記１２章３節に、神はアブラハムにすばらしい約束を与えたことが記されています。**「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」**と、アブラハムから全世界の者たちが祝されるという、神がアブラハムと結んだこの契約の恩恵に今あなたは与っていると、パウロは言っているのです。アブラハムに約束されたその祝福、それを今、異邦人であるあなたがいただいていると言うのです。

つまり、皆さん、私たち信仰者、クリスチャンは、神が選び、神が愛して契約を結んだアブラハムの霊的子孫なのです。私たちは肉的子孫ではありません。イスラエル民族、ユダヤ人ではありません。でも、契約を結ばれたこのアブラハムの霊的子孫とされたのです。ですから、私たちは先ほども言ったように、アブラハムに約束されたその祝福を今楽しむことができる者とされたのです。だから、パウロは言います。「その恵みを感謝しなさい。あなたはこの契約の恩恵を受けている。」と。ガラテヤ３：７－９にはこのように記されています。**「ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。:8 聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前もって福音を告げたのです。:9 そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。」**と。

パウロはアブラハムに与えられたこの約束を引用しながら、神がアブラハムに約束した祝福を何千年か経った今、あなたはいただいたと言うのです。すごいことです。神がアブラハムにこの約束を与えられた時に、もうすでに、私たちがこのすばらしい祝福に与ることを神はお定めになっています。少なくとも、私たち信仰者が今覚えるべきことは、今、私たちがこのように楽しんでいる救いはすべて、アブ

ラハムに与えられたもの、約束されたものであるということです。私たちがみな楽しむことを赦していただいたのです。

（２）「主のあわれみ」をいただいたから　　１９－２１節

１９節**「枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。」**、すでに、私たちは１７節で見ました。イスラエルの不信仰と私たち異邦人の信仰のことです。異邦人信仰者が考えることは、イスラエルが神を拒んだゆえに、救い主を拒んだゆえに、その祝福は私たち異邦人に与えられたということです。パウロは２０節の初めに**「そのとおりです。」**と記しています。確かにそうだと言うのです。歴史を見ると、ユダヤ人が神をこの救世主を拒んだゆえに、福音は私たち異邦人に及び、そして、私たちは救いに与ったのです。間違っていないというのです。それを肯定した後、パウロはこのように言います。**「高ぶらないで、かえって恐れなさい。」**と。２０節**「そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。」**。

◎**「高ぶる」**：高慢になったり、高慢な考えを抱いてはいけないと言うのです。かえって、あなたは

◎**「恐れなさい」**：何を恐れるのでしょう？「高慢」という罪に陥って行くことを恐れなさい、そのようなことがないように自分自身に気をつけていなさいと言うのです。

実は、パウロはそのことをＩコリント１０章１２節でこのように教えています。**「ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。」**と。**「立っていると思う者は」**とは自分自身の力に過信している者たち、自分の力を信じている者たちです。自分に自信があるのです。イスラエルはそうでした。彼らは自信がありました。「我々は選民であり神の律法をいただいている。だから、我々は歩みにおいて失敗することがない。すべての点において神に喜ばれる。」と。ところが、実際には彼らは偶像礼拝を招きました。そして、神のさばきを経験しています。

パウロは私たちの弱さを知っているのです。そこでパウロは言うのです。「自分たちの力や自分たちの知恵に立って生きようと、もし、あなたがそのように思っているなら、気をつけなさい。」と。なぜなら、そのような思いをもったその瞬間から、あなたは罪に陥り始めているからです。このような思いをもって「私は強い信仰者だ。私は神に喜ばれることができる。」と思っている、そのような信仰者は悲しいことに、神から栄光を横取りする者たちです。神が私たちのうちに働いてくださって、様々な試練を通して私たちにいつも教え続けてくださっていることは何かと言うと、「私たち自身の弱さ」です。信仰が成長すれば、私たちは益々自分の力では何も出来ないということに気付くのです。しかし、プライドが邪魔します。そのようなことは認めたくないと。しかし、私たちは自らの姿を見るとき「神さま、私はすべての点においてあなたの助けが必要です。」と、そのことに気付いた者たちは、絶えず祈る人になるのです。神の助けが必要だからです。そして、その人たちが感射するのはその助けがいつも与えられるかです。神に依存しながら生きていくということは、私たち信仰者のあるべき姿です。そのときに、神が栄光をお受けになるのです。

「気をつけなさい」とパウロは言います。自分の力で生きようとする者たち、自分の力に過信している者たち、そうではなく、神の助けをいただきながら生きなさい。高ぶってはいけない、かえって、罪に陥ることがないように、注意を払いながら、恐れながら生きて行きなさいと言います。「高ぶる」のではなく「恐れる」、その理由は「すべて神のあわれみ」だからです。

ローマ書１１章に戻って、２１節をご覧ください。**「もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。」**とあり、これはユダヤ人と私たち異邦人のことです。人々の間にあった間違い、それは自分たちは神に選ばれたグループに属しているから、神のさばきを免れると考えていたことです。これはユダヤ人も異邦人も同じです。神はイスラエルをさばかれました。なぜ、彼らをさばかれたのですか？彼らの罪のゆえです。パウロは、イスラエルの人たちは神によって選ばれた者たち、特別な者たちだ、でも、神は彼らが罪を犯したときにその罪をさばかれたと、そのことを２１節で言うのです。**「神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、」**、神は彼らを赦さなかったということです。なぜなら、彼らが罪を犯したからです。選民であっても、罪を犯すことによって神が彼らをさばいたのであれば、選民でない私たちも罪を犯せばその罪はさばかれるということです。なぜなら、私たちはエペソ人への手紙２章でパウロが言うような者だからです。１１節**「ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、」**と、つまり、ユダヤ人からそのように非難されていたのです。１２節**「そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。」**、つまり、全く希望がなかったと言うのです。ということは、イスラエルの人々には希望があったのです。その人たちに対して神は罪に対しては容赦なくさばきを下したのです。「異邦人の皆さん、神はこのイスラエルと同じことをあなたにもされ

ますよ。」と、特別な存在である彼らもその罪がさばかれたのなら、あなたの罪も同じように、神は容赦することなくおさばきになるのです。しかし、「感謝なことに、神はあわれみ深いお方です。あなたの罪を知っていながらそれでも神はあなたに赦しを与えようとしておられる。」とパウロは言います。私たちは「救いは１００％主の恵みである」ことを覚えることです。私はしっかり神とつながっているか？とそのことを吟味することです。神の救いに与るのにふさわしい者はだれ一人いないのです。

詩篇１０３：１０に**「私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、私たちの咎にしたがって私たちに報いることもない。」**とある通りです。すべて、救いは神の恵みです。私たちの行ない、身分、家系、これまで行なって来た様々な慈善行為など、それらによって救いをいただいたのではないと言うのです。あなたがこの救いに与ったのは、神が一方的にあなたをあわれんだからです。ですから、パウロはこうして私たちに「あなたのどこに神のあわれみを受けるようなすばらしいものがありますか？」と言うのです。神があなたに目を留めるような何かすばらしいものがあなたの内にありますか？と。どこにもありません！イスラエルをさばかれた神は、あなたをさばいてしかるべきなのです。なぜなら、私たちは神に逆らい続けて来たからです。しかし、感謝なことに、この神はあわれみの神であり、イスラエルをあわれまれるとともに、あなたをもあわれんで、あなたをその罪の深みから救い出してくださった、これはすべて、神のあわれみのみわざであると言うのです。だから、信仰者である私たちは「こうして、今私たちが永遠のいのちをいただいて喜んでいるのは、すべて神の成してくださったあわれみのみわざだ。」と、そのことを忘れてはならないのです。それを覚えている人は、この救いに関して自分を誇ることをしません。なぜなら、誇ることは何一つないからです。パウロが言ったように「誇るなら自分の弱さを誇ります。私が誇るのはイエス・キリストだ!」と言うはずです。パウロは知っていたからです。私が一生懸命奉仕して来たから、私が一生懸命主に仕えて来たから、私が一生懸命に良いことをして来たから、そうではなく、神があわれみ深いお方で、一方的に私をあわれんでくださったから、今この救いに与っているということを。

今、私たちはこうして永遠のいのちをいただいて生きて行くことができるのは、神があわれみの神だからです。あなたをこんなにも深くあわれんでくださってあなたを救ってくれたのです。

（３）主の愛　　２２節

私たちが「枝」に対して誇れない理由の三つ目は「主の愛」です。２２節をご覧ください。**「見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。」倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。」**、ここでパウロは二つのことを教えています。**「神のいつくしみときびしさを。」**と、つまり、神のさばきと神の赦しをしっかり覚えておきなさいと言うのです。

◎さばきがある：「倒れた者の上にあるのは、きびしさです。」、さばき、厳正な神の厳しいさばきです。

◎赦しがある：「あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。」、神はあなたの上に豊かな愛を与えてくださったのです。

だから、パウロはこの救いに与ったあなたが覚えておくべきことが二つあると言います。

◎覚えておくべき二つのこと

ａ）神の恵みによって神の民とされたこと：すなわち、救いに与ったことです。神があなたを愛してくださりこの救いに与った、この救いは神の一方的な恵みである、そのことを覚えておきなさいと。

ｂ）神のいつくしみの中にとどまっていなければさばかれること：

２２節の後半に**「ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。」**とあります。パウロは最後に非常に恐ろしいことを告げます。「あなたの上にあるのは神のいつくしみである。神のご愛です。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされる。あなたがその愛から離れるならあなたは切り落とされる。」ということです。ある人はこのみことばを見て「救われた人々がその救いを失ってしまう」とパウロはそのように教えていると考えます。そのように読もうと思えば読めるからです。いつくしみの神の愛をいただいて救いに与っていながら、あなたがそこにとどまらずにそこから離れてしまったら、あなたは切り落とされる、その祝福から切り落とされてしまう、滅ぼされてしまうと。

果たして、パウロはそのようなことを教えているのでしょうか？救われ続けるためには私たちの努力が必要であると教えているのでしょうか？皆さんもよくご存じのように、パウロはこのような表現を何度も使っています（Ｉコリント１０：１－１２、ガラテヤ５章やコロサイ１章、Ｉテサロニケ３章）。また、ヨハネ８：３１、１５：５－６、コロサイ１：２２－２３、ヘブル３：１２－１４、Ｉヨハネ２：１９など、パウロだけではありません。イエスご自身も、ヨハネもヘブル書の著者もこのよう表現を使っています。パウロが言いたかったことは、「神のご愛をいただいた者たちは、その神のご愛のう

ちにとどまり続ける者たちだ。」ということです。では、その神の愛のすばらしさを知った上で、そことを聞いた上で、頭で何となく理解した上で、その愛に背を向けて、その愛から立ち去ってしまう、言い方を変えるなら、この主を捨てる者たちは元々救いに与っていなかったと言っているのです。

なぜですか？皆さんもご存じのように、救いは神が下さるものだからです。今、私たちが見て来たように、救いは神の一方的なあわれみであり、神の一方的な恵みであり、神の一方的な愛なのです。神が救ってくださったのです。神が救った者を神が失うことはないのです。問題は、救われていないのに自分は救われていると思っている人たちがいるということです。「私は教会に行っています。バブテスマを受けました。奉仕もしています。こんなこともあんなこともしました。」と、でも、そのように言う人たちの中に救いに与っていない人たちがいる可能性が大なのです。

マギー博士はロサンゼルスで長い間牧会をして来られました。今は天におられますが、この方がよくジョージ・ギル博士の話を引用なさって、このように話しておられました。「ある教会はイエス・キリストの再臨が起こったその翌日曜日に礼拝に集まるであろう。そして、だれも欠けることなく、いつもと同じメンバー全員が集うであろう。」と。非常に恐ろしいことです。なぜなら、イエス・キリストの再臨は、イエス・キリストがクリスチャンを迎えに来てくださるのです。先に召された新約の聖徒たちがよみがえって、私たちが栄光のからだに変えられて、空中でイエスとお会いするのです。そのときに地上にはクリスチャンはいなくなるのです。では、空中再臨の後、人々が礼拝に集まるとはいったいどう意味ですか？救われていなかったということです。そういう人々がいると言うのです。そのような教会が存在していると言うのです。確かに、みことばはこのような警告を与えています。一番の悲劇は、救われていると思っていながら救われていなかったという人です。だから、みことばは何度も私たちに警告して、あなたの信仰は間違いないかと問いかけるのです。

さて、信仰者の皆さん、今日、パウロは私たちにこのすばらしい祝福に与った者として、救いという祝福に与った者として、幾つかの注意事項を与えました。それは私たちが誇らないためです。人を見下さないためです。

結論：**私たちが覚えているべきこと、感謝するべきこと**

（１）「契約の恩恵」に与っていること

あの偉大な信仰者アブラハムの霊的子孫とされたのです。

（２）「主のあわれみ」をいただいているにすぎないこと

私は救いを得るために何もできなかった、私が出来たことはただ神に逆らい続けることです。しかし、神があわれみをもって私を救ってくださった。主ご自身のあわれみだけが私たち罪人を救いに導くのです。罪人に救いを、赦しをもたらしたのです。

（３）「主によって愛されている」こと

このような者を受け入れてくださった、そして、永遠の愛をもって愛してくださっていること。感謝なことに、この愛から私たちは引き離されることがない。神があなたをしっかりと捕まえてくださっている。パウロのことばを借りるなら、**「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」**（ローマ８：３９）。

私たちはすばらしい祝福をいただいたのです。神はあなたを救ってくださり、生まれ変わらせてくださり、そして、その神があなたを永遠の愛をもって愛してくださっているのです。私たちはこのようなすばらしい祝福をいただいた者として、見なければいけないのは「上」です。神です。神が一方的な恵みをもってこのような祝福に招いてくださったのです。だから、自慢するのは止めなさい、誇るのは止めなさい、さばくのは止めなさい。かえって、感謝しなさい、あなたが救われたことを。なぜなら、私たちが心から神に感謝するときに、私たちは人々にこのすばらしい感謝に価する神を伝えようとし、そして、私たちの心が感謝に溢れているときに、人々は最も私たちのうちにイエスを見るからです。

救われた者として、この祝福をいただいた者として、自らの歩みをしっかりと注意しながら、目を見張りながら、神が喜んでくださる歩みを継続することです。神の栄光が現わされて行くために。

《考えましょう》：

１．主の祝福を得るには何をしなければなりませんか？
２．あなたはどのような祝福を主からいただきましたか？
３．なぜ、主は「高ぶること」を憎まれるのでしょう？
４・私たちはなぜ「高ぶる」のでしょう？その原因は何だと思われますか？
５．どうすれば、「高ぶりの罪」に勝利することができるのでしょうか？
６．救いをいただいているかどうかは、どのようにして分かるのでしょうか？